

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	くものいえ藤沢南口		
○保護者評価実施期間	2026年 1月6 日		2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	2026年 2月1 日		2026年 2月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの特性に応じたオーダーメイドの支援プログラムを作成し、マンツーマンによる個別療育に特化している	こどもの興味や関心を取り入れた教材や活動を選び、日々の体調や気分に合わせて柔軟に対応している。また、保護者と密に連携し、ご家庭でのサポート方法を療育に反映させることで、より個別性の高い支援を実現している。	こども一人ひとりに最適な療育を届けるため、支援が固体化されないよう工夫しながら、職員全員で日々研鑽を重ねている。ケース会議等で丁寧に話し合いを重ね、より効果的で柔軟な支援方法を検討していく。
2	個別療育と小集団療育を組み合わせ、一人ひとりの特性に応じた支援と社会性の育成を両立している	個別療育と小集団療育の内容を連動させ、こどもの様子や成長段階に応じて支援方法を見直し、柔軟に対応している。	個別で丁寧に関わる中で見えてくる発達上の課題を整理し、職員間で共有しながら小集団療育における支援方法の検討に活かしていく。
3	モニタールームを設置し、こどもの支援の様子を見学できる環境を整えている。フィードバックの時間を設け、保護者に丁寧に共有している	保護者が支援の様子を理解しやすいよう、見学のタイミングや内容を工夫し、フィードバックでは言葉だけでなく、具体的な様子やこどもの反応を交えて丁寧に共有している。	見学やフィードバックの内容をよりわかりやすく工夫し、保護者がご家庭での関わりに活かせる具体的なアドバイスを提供できるよう検討していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	安定した支援の継続につなげていくため、支援体制を維持しながら、業務の工夫について継続的に検討する	支援体制を維持しながら業務の工夫を進めており、職員配置や業務の進め方の効果を、より明確に把握できる仕組みを整えることで、支援の安定と質の向上につなげられる。	職員の業務や役割を整理し、日々の支援がスムーズに行える体制づくりを進めている。職員同士で工夫や改善点を共有し、保護者の皆さまに安心してご利用いただける安定した支援につなげていく。
2	職員の専門性を高める研修や学びの機会を計画的に確保し、支援力の向上を図る	多様な支援のニーズに対応する中で、職員一人ひとりに求められる知識や技術の幅が広がっており、計画的に研修や学びを確保する。	職員の専門性を高めるため、計画的な研修の機会を整えるとともに、日々の事例共有や振り返りを通じて学びを深め、支援力の向上につなげていく。
3	保護者支援の充実や地域との連携・交流について、今後さらに検討を進める	保護者支援や地域との連携・交流を充実させることは重要と考えているが、現在は取り組みの幅や機会にまだ伸びしろがあり、計画的に検討を進める。	保護者支援の充実や地域との交流の機会を積極的に検討・実施し、情報共有や相談体制の整備を進めることで、安心してご利用いただける支援環境をさらに高めていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 くものいえ藤沢南口

公表日 2026年2月13日

利用児童数 2026年1月31日 回収数 3

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	3					体を動かすための活動スペースと、落ち着いた個別支援を行える部屋を分けて確保し、こどもたちが安心して過ごせるよう、発達支援の内容や利用定員に合わせた適切な広さとなるよう配慮している。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	3					法令で定められた職員配置基準を遵守し、適切な人員配置を行っている。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	3					こどもの特性に合わせて生活空間をわかりやすく構造化し、一人ひとりが安心して過ごせるよう配慮した環境を整えている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	3					日々の清掃や環境整備を通して、清潔で心地よい空間を保ち、こどもたち一人ひとりの特性に配慮した、安心して過ごせる環境づくりに努めている。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	3					職員が日々研鑽を重ね、こどもの特性に寄り添いながら、専門性のある支援をわかりやすく提供できるよう努めている。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	2	1			開所間もなく、小集団での活動が行われていないため、ごちらの評価とさせていただきます。	貴重なご意見をいただきありがとうございます。開所間もないため、現時点では十分な評価に至っていないが、公表している支援プログラムを大切にしながら支援を行い、ご利用者の声を踏まえて今後検証・改善に努めていく。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	3					こどもの特性や状況を丁寧に把握し、客観的な分析を行いながら、一人ひとりにあった支援計画の作成に努めている。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	3					ガイドラインを踏まえつつ、こどもの特性や状況に応じて、具体的にわかりやすい支援内容を設定している。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	3					個別支援計画に基づき、こどもの状況に応じて柔軟に対応し、計画に沿った支援の提供に努めている。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	3					複数の活動内容を用意し、こどもの状況や目的に応じて、選択・調整することで、活動プログラムの固定化を防いでいる。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。					3	現時点では地域のこどもたちとの交流は行えていないが、こどもたちが安心して地域の活動に参加できるよう、今後の実施に向けて検討を進めている。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	3					運営規程、利用者負担額について、契約時に重要事項説明書とともに丁寧に説明できるよう努めている。提供する支援プログラムについては、支援終了後に保護者の皆さまへフィードバックの時間を設けている。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	3					個別支援計画書の交付時に、目標および支援内容等の説明をしており、ご了承いただいた後にサインをいただいている。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	3					現時点でご家族等が参加できる研修等は実施していないが、今後、支援の一環としてペアレント・トレーニングの導入を検討している。

保護者への説明等	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状態について共通理解ができていると思いますか。	3				フィードバック時や日々の関わりの中でこどもの状況を保護者と丁寧に伝え合い、安心して支援を受けていただけるよう共通理解に努めている。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	3				こどもやご家族の状況に応じて、定期的な面談を通して、子育てに関する悩みや相談に丁寧に対応し、安心して支援を受けていただけるよう努めている。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	3				日頃からこどもの気持ちや保護者の状況に丁寧に耳を傾け、寄り添った共感的な支援の提供に努めている。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。			3		現時点では父母の会や兄弟向けの交流は行っていないが、こどもやご家族の状況に配慮しながら、安心して参加できる交流の場を今後検討している。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	3				こどもやご家族からのご相談には、迅速かつ丁寧に対応し、必要な支援や助言を提供して安心して受けいただけるよう努めている。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	3				こどもや保護者の状態に応じて視覚的な情報を活用し意思疎通・情報伝達を実施している。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	3				HPで自己評価の公表およびブログやインスタグラム等のSNSで、日々の活動の様子や各種イベントのご案内を掲示し発信している。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	3				個人情報が記載された書類は鍵付きキャビネットに保管しており、個人情報にアクセスできる端末はパスワードを設定する等、適切な対応をしている。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2		1		各種マニュアルを作成し、すべての職員が定期的に研修および訓練を実施している。保護者の皆さまにわかりやすく周知できるよう検討し努めていく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	2		1		防災訓練、自然災害訓練、感染症対策訓練等実施している。今後も安心して通所していただけるよう努めていく。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	3				安全計画を策定し各種研修を実施しており、保護者の皆さまには分かりやすく周知できるよう努めていく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	2		1		事故発生時には、状況を迅速に把握し、保護者にわかりやすく丁寧に説明することで安心していただけるよう努めている。また、職員で原因の究明、改善策の検討、共有を行い、事故を未然に防止できるよう努めていく。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	3				こどもやご家族が安心して過ごせる環境づくりに努めている。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	3			まだ、数回の通所ですが、自分の好きなことを中心に様々なプログラムをご用意いただき、本人としても、できることが増えた実感があるようで、とても楽しく通わせていただいています。	貴重なご意見をいただきありがとうございます。こどもたちが通所を楽しみにできるよう、今後も活動内容や環境づくりに努めていく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	3				今後も、ご家族と一緒にこどもの成長を見守り、「くものいえにきてよかった」と感じていただけるよう、温かく安心できる事業所づくりに努めていく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		くものいえ藤沢南口				公表日	2026年 2月 13日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		体を十分に動かせる活動室と、落ち着いて個別支援を行える部屋を分けて確保しており、発達支援の内容や利用定員に応じた適切な広さとなっている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		法令で定められた職員配置基準を遵守し、適切な人員配置を行っている。	急な欠員時にも支援の質を維持できるよう、今後も体制づくりに努めていく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		視覚的な掲示物を活用し、こどもが活動の流れや場所を理解しやすいよう構造化している。 机や椅子は身長に応じて調節できるものを使用し、個々のこどもに合った姿勢や活動が行えるよう配慮している。 移動にご不安のある方にも配慮し、エレベーターを設置しております。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		個別支援を行う部屋は、壁紙を優しいパステル調にすることで、落ち着いて心地よく過ごせる空間づくりを行っている。 机上課題では、個別に特化した部屋を設け、集中しやすく安心して取り組める環境を整えている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別に使用できる部屋が3つあり、一人ひとりが落ち着いて活動できるようになっている。また、必要に応じて保護者面談や相談室等で利用するなど臨機応変に対応している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		PDCAサイクルに基づいた支援の見直しを行うため、定期的に会議を実施している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		検討した結果については、職員間で周知を図り、支援の質向上や業務改善につなげられるよう徹底に努めている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員が意見を発信しやすい教室づくりを心がけ、日頃から報連相を徹底している。また、話し合いがしやすい雰囲気大切に、職員の意見を業務改善につなげている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		年に一回自己評価アンケート(公表)を実施し業務改善につなげている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人内で研修システムが設けられており、すべての職員が研修を受講する機会が確保されている。	今後も外部研修へ積極的に参加し、専門性の向上に努めていく。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		公表する支援プログラムに沿って支援を提供している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		アセスメントをもとにすべての職員がモニタリング会議に参加し、情報共有に努めている。こどもの特性や必要な課題について、適宜見直し支援計画に反映させている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個別支援計画検討会議においてよりよい意見交換に努め、すべての職員が共通理解の下、多角的な視点で検討している。		

適切な支援の提供	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援計画について、すべての職員が内容を理解・共有し、計画に基づいた支援を実施している。 また、ケース会議を定期的に行い、計画と発達段階の相違がないかの確認を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントでは、表面化されていない背景にも目を向け、こどもの適応行動の状況等、詳細を記録している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		すべての職員がガイドラインを確認し、ねらいおよび支援内容を踏まえ支援プログラムを作成している。	提供した支援内容を具体的に分かりやすく説明できるよう努めていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		個別支援計画書をもとに目標を統一し、支援プログラムを立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		様々な教材やアイデアを検討し、日々多様な支援に取り組んでいる。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		こどもの特性や発達段階に応じて、個別から小集団への相互強化を図り、適切な支援内容を提供している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援プログラムにおいて、こどもの特性に合った支援指標を作成し共通理解のもと支援を行っている。 朝礼などで打ち合わせを行い、その日の活動や流れを確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援記録やミーティングでのやり取りなどで、日々十分な共有がなされている。 支援終了後には振り返りを行い、こどもの成長とともに改善点を明確にし次の支援につなげている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援記録の記載方法も統一されており、誰がみてもわかりやすい形式で記録を残している。 前回の支援記録を確認し、ポイントやねらいを定めることができている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		基本的に6か月に1度のアセスメントを通じて見直しを図り、個別支援計画の交付・説明を行っている。	こどもの状況に応じて面談の機会を設け、適切な見直し時期の必要性を見極められるよう努めていく。
関係機関	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		対象のこどもの情報収集および状況を理解し、児童発達管理責任者が参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保育所等訪問支援や関係機関連携を通じて、園や保育園等と連携を行っている。	今後は、医療機関等、より幅広く関係機関と連絡・調整ができるよう努めていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		関係機関等の連携の際にはカンファレンスを行い、情報共有および相互理解を図ることを目的としている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		移行支援先と定期的な情報共有や意見交換を行い、相互に支援体制の強化を進めている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					

や 保 護 者 と の 連 携	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	○		事業所連絡会に参加し、市役所職員から助言や児童発達支援センター、他事業所との意見交換の場を設けている。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○			外部イベント等を通じて更なる地域活動を強化できるよう努めていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		支援後のフィードバックにおいて、支援内容をもとに共有や助言を行い、保護者とこどもの成長を共に感じ、分かち合うことができている。 支援の共有とともに保護者の興味あることなど、何気ない会話も楽しめるように、ほっとする空間も作れるよう努めている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	現時点でご家族等が参加できる研修等は実施していないが、今後、支援の一環としてペアトレーニングの導入を検討している。		
保 護 者 へ の 説 明 等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		運営規程、利用者負担額について、契約時に重要事項説明書とともに丁寧に説明できるよう努めている。提供する支援プログラムについては、支援終了後に保護者へフィードバックの時間を設けている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		アセスメントを実施し、家族の意向やこどもの状況を確認する機会を設けている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画書の交付時に目標および支援内容等を丁寧に説明し、了承いただいた後にサインをいただいている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		ご相談があった際には、早い段階で適切に対応できるよう努めている。また、状況に応じて必要性がある場合はお声がけをさせていただいている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		保護者のニーズを踏まえ、今後、保護者会の導入を検討している。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		保護者からの申し出があった場合に、迅速かつ適切に対応できるよう努めている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		HPで自己評価の公表およびブログやInstagram等のSNSで、日々の活動の様子や各種イベントのご案内を掲示し発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報が記載された書類は鍵付きキャビネットに保管しており、個人情報にアクセスできる端末はパスワードを設定する等、適切な対応をしている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		こどもや保護者の状態に応じて視覚的な情報を活用し意思疎通・情報伝達を実施している。	
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域住民の皆さまが参加できる季節のイベントを開催している。	地域交流の機会を大切に、多くの地域住民の皆さまに「くものいえ」の良さや役割を理解していただけるよう、今後も継続して取り組んでいく。	

非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを作成し、すべての職員が定期的に研修および訓練を実施している。	保護者の皆さまにわかりやすく周知できるよう検討し努めていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画(BCP)を策定し非常災害に備え定期的に必要な訓練を実施している。	今後も安心して通所していただけるよう努めていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時や日々の支援前にも事前に確認している。	今後もすべての職員が必須確認事項として努めていく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		医師の指示書はいただいているが、アレルギー有無に関しては契約時に確認している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画チェックリストを設け、日々確認し支援を行っている。	今後も皆さまが安心して通所していただけるよう努めていく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画の策定を行い、こどもの安全確保に努めている。	保護者の皆さまにわかりやすく周知できるよう検討し努めていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ケガや事故が発生した際には、日報に記録しすべての職員が原因の究明、改善策の検討、共有を行い、事故を未然に防止できるよう努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会を設置し、すべての職員が研修会に参加し適切な対応方法を学び実施している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束適正化委員会を設置し、すべての職員が研修会に参加し適切な対応方法を学んでいる。個別支援計画に記載し説明を行っている。		